

2023. 6. 5

# Report from AKATSUKA PARK

発行：赤塚公園ニリンソウを守る会

- 植物モニタリング活動 6/12、6/19 9:00 ため池公園梅林下集合 →大門地区
- ニリンソウを守る会例会 観察&学習会「崖線の水場巡りと湧水を考える」(第2回)  
6/11 エコポリスセンターにて、申込制(締切済。詳しくは、090-8646-9757 木村まで)

<問合せ：赤塚公園サービスセンター03-3938-5715>

## NHK 朝ドラのモデル牧野富太郎さんの名言 「雑草という名の植物はない」



5月のモニタリングはこのレポートの執筆者がお休みしたり雨にたたられたりして1回しか発行できず、久しぶりの発行です。赤塚の林はもうすっかり夏模様になっていました。

さて、表題の牧野さんの名言に関してですが、通常、「雑草」とか「雑木」という場合、その場所で目立たせたい主たる植物、とりわけ植栽・育成している植物以外の植物に「雑」を付けます。杉や松の林にコナラやブナが生えてきて、それらばかりになったら「雑木林」になるわけです。バラの

花園にニリンソウやキンランが生えてきたら、どんなに貴重な植物でも「雑草」になります。

### それで…、このむく犬を形づくっているクズは「雑草」なのか？

公園の管理をしている方には申し訳ないのですが、せっかく植樹してある松を松らしく剪定管理しないで放っておいた結果、クズの葉のムク犬が出来上がって見事な造形美。今年で2年目になります。この際、クズを主たる植物の「**ムクズ**」と命名し、松はクズが絡みつく素材として雑に扱い「**ソマツ**」にしたほうが分かりやすい、とモニタリング参加者が言っていました。

そこで、表題に戻って、牧野さんのこの明言はさすがです。すべての植物は懸命に命を燃やし



ているのだから、その存在を尊重しようというのが牧野さんの考えであり、わたしたちの保護活動の本旨です。

久しぶりの屋外活動で植物と向き合ってきました。





## あちこちで実を観察



←6/3の台風2号で落ちたのでしょうか、ウメの実があちこちに。枝に成っている実を大量に「収穫」していく不届き者がいるようですが、これは泥棒になりますのでやめてください。



↑こちらはシラカシの実。



←目立たないけれどカマツカの実の赤ちゃん。ブナ科の植物の実を「どんぐり」といいますが、ちゃんと「どんぐり」の形をしています。成熟するのは9月か？ 今年はやいかもしれません。



ニワトコの実も色づいてきました→

## こんな光景も今の季節らしい

↓ミズヒキの葉に白いぶつぶつが・・・ムムッ、これは虫か病気か！？



上を見上げるとサンゴジュの花が満開でした↑ このぶつぶつはサンゴジュの花が散ったもの。これを見なければ、頭上の花には気が付きませんでした。



奇妙な紋様の葉＝よく見れば葉影。これ「葉影葉」というのかー

## 台風2号の大雨でニリンソウ自生地が冠水



各地に被害をもたらした台風。ここでも遊歩道まで水につかってしまい、引いた後は野草の葉に泥がかぶってしまいました。でも、ひと雨くれば、すぐにきれいになります。

武蔵野台地の崖線はもともと荒川の流れが削ったもの。植物もムクノキやミズキなど湿り気の多い土地を好むものが多く、ニリンソウもそうです。長期間の冠水はよくありませんが、崖線の全体が乾燥化している近年では、あの程度の湿り気ならば、むしろ歓迎といえるものでした。